

表現力を高める工夫～自分の読みを友達と交流する活動を通して～

平成 22 年度（富士の会）三条市立大崎学園 渡部大

【主張】

国語の物語文の学習において、私のこれまでの授業を振り返ると、問い返しから子どもの考えを誘導し、「教師の求める正解を言える子どもの育成」になっていた。教師の問い返しによって、読みを深めたいはずなのに、子どもたちは教師の求める答え探しになってしまう傾向があった。

自分の読みを友達と交流し、読みを深めたり広げたりする楽しさを味わわせたい。そのためには、まず、自分自身の読みをもつことが必要不可欠である。自分の読みができるようになる手立てとして、物語文を読むための「読みの観点」を活用した自力読みの場を設定する。そして、自分の読みをペア、グループ、全体で発表し交流する。振り返りは、ICT（タブレット：google forms）を活用して集約して、全員分を学級だよりの形で配布する。友達や家の人を読み手として意識して表現していく中で、友達の読みを知りたい、読みをさらに深めたいという意欲が向上し、自分の読みを表現する力を高めることができるのではないかと考える。